

2021 年度 聖学院大学

秋学期入学試験 小論文 問題

問 以下の文章では、「紙の事典」（印刷されて、書籍として実在するもの）と、「ネット事典」（Wikipedia などのインターネット上に情報が記載されているもの）、「電子事典」が比較されている。これを読んで以下の①、②についてあわせて 800 字以内で述べなさい。

- ① 筆者はどの事典が最も優れていると考えているのか。理由をあげながら、筆者の意見をまとめなさい。
- ② 筆者の意見についてあなたが同意できる点と同意できない点を、それぞれ理由をあげて述べなさい。

国語辞典、外国語の辞書もですが、ぜひ本棚に並んでほしいのが百科事典です。

「事典」とは何か。

まず「言葉の意味」を記した辞典とは違う。「事典」とは、ものごとの「内容」を説明した本のこと。「百科」がついているので、「あらゆるものごと」の内容を説明した本、ということになる。

（中略）

事典は、書き手が自己主張をする場ではありません。知識を共有し、ものを考える土台を提供するのが、事典の役割です。だから、論争を招くような内容であってはいけない。とは言え、せっかく新しい事典なのだから、これまでに書かれた項目よりも、共通知識にする新しい内容を積み重ねられるように、半歩でも一歩でも前進するように書く。そういう書物が、事典というものだということは、まずわかってもらいたい。

（中略）

最近は、「ウィキペディア」みたいな、ネット事典も重宝されています。

たしかに便利です。でも、ものごとをきちんと理解し、より深く考える力を養うには、やっぱり紙の事典がいい。

そう考える理由は、ふたつあります。

第一に、ネット事典は、内容が正しいかどうか、とても危うい。しかも、どんどん書き換えられていく。複数の書き手による相互チェックがはたらくから、ネット事典はよいという意見もあるが、私はかなり懐疑的です。

ネット事典は、論文や本を書く場合に、出典や参考文献に掲げることができません。論文や本は、正しい知識を共有する仕組みですが、よほどのことがない限り、ネット事典の情報をそのまま使わないのがルールです。

つまり、ネット事典はまだまだ「信用できる」と認められていない。ネット事典は「権威」ではないんです。ネット事典の引用ですませているのは、学部学生のレポートか、社会人でもシロウトさんですね。

もちろん、ネット事典を参照してはいけない、と言いたいのではない。ちょっと調べるにはとても便利なんだから。けれども、第三者にしっかりした内容を伝えたい場合には、ネット事典（だけ）からえた内容は、含めないように注意してください。

出版されている事典類ならば、版元の担当者がしっかりと内容を精査している。出版された事典は「権威」です。だから論文や本に出典として掲げても、信用が損なわれることはありません。

事典を執筆しているのは、それぞれの道のプロ（学者や専門家）です。

学者や専門家は、自分の専門分野には通じている。100 パーセント正しいとは言えないが、そこを疑いだしたらきりがない。さまざまなメディアでいい加減な解説がはびこるなかで、「もっとも正しい」とは言える。そういう約束なのです。

となると、「電子事典」はどうだろう。

紙で出版されたものが、そのまま電子化されている。いちいち重たいのを引っ張り出してページをめくりたくない、という人には便利です。

それでも私は、紙の事典をおすすめしたい。なぜなら紙の事典は、気が向いたときにバラバラと眺めるのに、ちょうどいいから。

わからないことだけを調べるなら、電子事典でもいいかもしれない。

でも紙の事典の最大の効用は、ばらばらページを繰っているうちに、知らないことがらの知識が目飛び込んでくること。これは、電子事典では得難いメリットです。

必要に応じて事典を引くのは「情報収集」「参照」の域を出ない。でも、ランダムにページを繰って未知なことがらと出会うのは、とっておきの散歩。いつ役立つかわからないのに、いつかのために蓄積する。つまり、教養を深めるということです。これが、紙の事典をすすめる第二の理由です。

橋爪大三郎『人間にとって教養とはなにか』SB 新書 2021 年